

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校
野球部OB会

会報発刊に寄せて

OB会長 神戸 鐵夫
(高三回卒業)

茨高野球部OB会の皆様、益々ご健勝のことと慶び申し上げます。

茨高野球部OB会の会報の発行に当たりご挨拶を申し上げますとともに、今後のOB会の運営等についてご説明し、皆様方のご理解とご協力をお願いする次第であります。

昭和六十一年の年末、立川前会長と米沢前幹事長から今後のOB会の運営を委嘱されて以来、私達新制高校卒業のOB有志は、何回となく会合をもち善後策を協議いたしました。皆様もご存じと思いますが、立川前会長は旧制茨木中学野球部の初代キャプテンであり、茨高野球部の生みの親とも言えるべき人です。また米沢前幹事長は第二次世界大戦中禁止されていた野

球部を戦後復活された中興の祖とも言えるべき人です。新制高校を卒業した私達には、これら大先輩のような経歴もありませんが、その代わり若さと情熱をもち、運営していかにするを得ないという結論になったわけであり、第三

先ず第一に組織を強化し、OB相互の親睦を強化することです。OB相互の連絡等には必要欠くべからざるものであり、最新の名簿が常に会員の手にあるようにすべきであり、そして最後に会報の発行です。現役選手に対する援助をお願いするにしても、あるいはOB相互の親睦を呼びかけるにしても、茨高野球部やOB会の状況を常にお知らせし、親しんでいただくなければ協力等得られるわけはありま

球部を戦後復活された中興の祖とも言えるべき人です。新制高校を卒業した私達には、これら大先輩のような経歴もありませんが、その代わり若さと情熱をもち、運営していかにするを得ないという結論になったわけであり、第三に名簿の整備を確実に行うこととあります。名簿はOB相互の連絡等には必要欠くべからざるものであり、最新の名簿が常に会員の手にあるようにすべきであり、そして最後に会報の発行です。現役選手に対する援助をお願いするにしても、あるいはOB相互の親睦を呼びかけるにしても、茨高野球部やOB会の状況を常にお知らせし、親しんでいただくなければ協力等得られるわけはありま

実することです。特に幹事会と事務局を強化し、OB会の断層をなくすように努めるとともに、次期世代に引継いでいる体制を作ることとあります。第二に会費の納入を促進することとあります。現役選手への援助等のOB会運営の基本は会員拠出の会費にあります。出来るだけ多くのOB会員から会費を納入していただくように努めることとあります。第三

せん。会報によってそれらの状況をお知らせし、OB会と会員とをより緊密なものにするように努力することとあります。茨高野球部OB会を永続させるより発展させていくためには、以上の四つを着実に実行していくほかありません。かかる意味からここに会報第一号の発行の運びとなったわけであり、若しOBが一丸となつて努力した結晶でもあります。茨高野球部とOB会に親しんでいただけたらと思います。今後とも皆様方の暖かいご協力とご激励を心よりお願いする次第であります。

新役員

名誉会長 立川 武衛 (中24回)

名誉顧問 米沢 福德 (中49回)

会長 神戸 鉄夫 (高3回)

副会長 吉田 俊彦 (高18回)

幹事長 加藤 丈士 (高3回)

副幹事長 山野 攻 (高12回)

副幹事長 広野 雅男 (高25回)

幹事 尾高 昇 (高7回)

山野 攻 (高12回)

田中 伸一 (高15回)

吉田 俊彦 (高18回)

杉島 達 (高21回)

広瀬 良和 (高24回)

関野 武良 (高25回)

小川 博 (高28回)

泉谷 直樹 (高31回)

森田 徹 (高33回)

加藤 裕一 (高35回)

秋田 正純 (高36回)

事務局 池永 徹 (高21回)

副事務局 和田 充司 (高30回)

事務局 吉岡 隆之 (高33回)

中山 達也 (高34回)

沢田 慶次 (高35回)

原 由美子 (高35回)

会計監査 藤本 明 (高4回)

顧問 太田 捷昭 (茨木高校野球部部長)

高1～8回担当
高9～13回担当
高14～17回担当
高18～20回担当
高21～22回担当
高23～24回担当
高25～27回担当
高28～29回担当
高30～31回担当
高32～33回担当
高34～35回担当
高36～38回担当

OB会の新組織について

- はじめに昭和六〇年度の年末忘年会の席で、米沢幹事長より今後の茨木高校野球部OB会の運営は新制高校のOBを中心に運営してもらいたい、これは立川会長の意向でもあるとの話がなされた。その後、新制高校のOBが数度会合を持ち、立川会長、米沢幹事長の意向を汲み、左記の通り新役員を選出するとともに今後の運営方針を決めました。
- OB会の目的
(1) 現役選手に対する各種の援助。
(2) OB相互間の親睦の強化。
(3) 今後の運営方針
上記の目的を達成するため次の四つを基本として運営する。
(1) 組織の強化
特に幹事会および事務局を強化し、OB会の断層をなくするよう努めるとともに、次期世代に引き継いでいける体制を作る。
(2) 会費の納入
OB会運営の基本は会員拠出の会費にあるので、出来るだけ多くの会員から会費を納入してもらうよう努める。
(3) 名簿の整備
名簿の整理を確実にこなす。五年に一回名簿を発行し、途中で変更があった場合は、会報に異動表を記載し通知する。
(4) 会報の発行
年一回会報を発行する。会報には現役の戦績、会計報告、OB会の活動状況、会員の異動、OB会行事計画等を記載し、OB会と会員との間をより緊密なものにする。